



医療情報ネットワークについて（平成 15 年 6 月定例会）

県内どこに住んでいても良質の医療を受けたいという県民の希望は強くなっており、特に、中山間地域が多い本県においては、医療に地域での格差があり、これを是正するためにも、専門的な医療を提供する手段として情報化をより一層推進していく必要があります。

私の住む周南地域も、都市部から離れた山村や離島があります。そこにある「へき地診療所」やその他の医院の医師は住民の生命を守るため、一人で幅広い診療分野に対応していかなければなりません。

こうした「へき地診療所」やその他の医院で、患者の病巣の画像などを伝送し、専門医の適切な診断・助言が得られれば、山村や離島に住む人々が都市部に劣らない医療サービスを受けることが可能となります。

県内の医療機関を情報のネットワークで結び、県民が良質な医療を受けることができる体制づくりは、是非とも必要であると思います。

県においては、今年 3 月に「山口県医療情報ネットワーク構想」を策定され、医療情報のシステム化を進められておられますが、医療情報ネットワークの構築に向けて、県はどのように取組んでいかれるのか、ご所見をお伺いいたします。

【健康福祉部長答弁】

医療の地域間格差の是正や、県民に対します幅広い医療情報の提供を行うことを目的に、平成 17 年度を目途として、「広域災害・救急医療」「医療連携」「へき地医療」「地域リハビリテーション」の 4 つの情報システムで構成する医療情報ネットワークを構築する事といたしております。

県といたしましては、今後とも、市町村をはじめ関係団体との連携を図り、医療分野における情報化を積極的に推進してまいりたいと考えております。